メッセージ　5

主と協力して彼のエコノミーを遂行し、彼の忠信な執事となって、主からの負担を持って言葉を供給し互いに一つ思いで組み合わされる

聖書:イザヤ 1:1. 2:1. 13:1. 15:1. ゼカリヤ 12:1. マラキ 1:1.
使徒 1:14. 2:46. 6:4. Ⅰコリント 14:4 後半

主と協力して神のエコノミーを遂行するために、 主の忠信な執事となって、主からの負担を持って言葉を供給し 互いに一つ思いで組み合わさる	
主の忠信な執事となって	ルカ 12:42 主は言われた、「それでは、主人がしもべの上に立てて、定められた時に食物の分け前を与える忠信で思慮深い執事は、だれであろうか？ Ⅰテモ 1:4 作り話や果てしのない系図に、心をとめたりすることがないように命じなさい. そのようなものは、信仰の中にある神のエコノミー[経綸]ではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。
主からの負担を持って言葉を供給し	イザヤ 13:1 アモツの子イザヤが見た、バビロンについての託宣. マラキ 1:1　マラキを通してイスラエルに臨んだエホバの言葉の託宣。 ゼカ 12:1 イスラエルについてのエホバの言葉の託宣。天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる、
互いに一つ思いで組み合わされる	使徒 1:14 これらの人はみな、婦人たち、イエスの母マリア、イエスの兄弟たちと共に、一つ思いでひたすら祈り続けていた。

＊「託宣」の原文は「負担」　負担は啓示であり、啓示は負担です。啓示から出た奉仕、働きには、必ず負担がります。負担から出た奉仕、働きには必ず啓示があります。

Ⅰ	神の分与は神のエコノミーのためです; 神のエコノミーは分与することによってのみ完成されることができます		
Ⅱ	忠信な執事、分与者を持たなければならない	A-B	神のエコノミー執事として、キリストを享受し、供給し、分与する
		C-E	恵みの執事職を遂行する
Ⅲ	言葉の務めは、必ず主からの負担を持って行わなければならない	A	負担を受け、負担を解き放つ （交わりの中で、祈ることを通して、啓示を受ける）
		B-C	言葉の供給、召会の建造
Ⅳ	わたしたちは、一つ思いで、互いに組み合わされなければなりません	A-B	組み合わせの霊、学ぶ霊、助ける霊
		C-D	言葉の務め、交わり、祈り
Ⅴ	互いに組み合わされて奉仕する: キリストを享受し、神にしたがって牧養し、快く与え、預言し建造する		

（朝ごとの食物第 5 週）　主と協力して神のエコノミーを遂行するために、主の忠信な執事となって、主からの負担を持って言葉を供給し互いに一つ思いで組み合わさる			
日	段落、流れ	主題	要点
1	忠信な執事 神のエコノミーを遂行する （完成する）	神のエコノミーは神の分与によって完成されます	神のエコノミーと神の分与
			神のエコノミーは神の分与によって完成される
2		執事職は神のエコノミーを遂行する(完成する)ためです	執事とエコノミー
			神の恵みの執事職
3	負担を解き放つ 言葉を供給する	主からの負担を持って言葉を供給する	負担を受ける条件
			負担を持たないことは言葉の務めの最大の問題です
4	互いの組合せ 一つ思い	一つ思いで、互いに組み合わされなければならない	単独にならない
			からだの中で組み合わされる
5		言葉の務めにおいて互いの組み合わされる	語ることにおいて、調和一致する
			へりくだり、互いに愛し合う必要
6		一つ思いで祈り、互いに組み合わされ、奉仕する	一つ思いでの祈り
			互いに組み合わされ奉仕する

神の分与は神のエコノミーのためです；

神のエコノミーは分与することによってのみ完成されることができます

Ⅰ．神の永遠のエコノミーは、神のご計画であり、彼の家庭のエコノミー、彼の家庭の行政です。神の分与、神の分配は、神が彼のエコノミーを完成するための過程また手段です。こういうわけで、神の分与は神のエコノミーのためであるのです——Ⅰテモテ 1:3-4 と 4 節のフットノート 3：

A．キリストは、神のエコノミーの中心、円周、要素、領域、手段、目標、目的です。事実、神の永遠のエコノミーの内容はすべて、ただキリストです——マタイ 17:5．ルカ 24:44。

B．わたしたちが神のエコノミーを認識していないなら、聖書を理解することはありません。聖書の中心的な主題は神のエコノミーであり、聖書全体は神のエコノミーに関するものです——ルカ 24:45．ヨブ 10:13．参照、エペソ 3:9。

C．神のエコノミーは、ご自身をわたしたちの存在の中へと分与して、わたしたちの存在が彼の存在をもって構成されることです。この事は、神がご自身を神聖な命としてわたしたちの中へと分与することによってのみ完成されることができます——エペソ 3:16-17 前半．ヨハネ 10:10．14:6 前半．Ⅰコリント 15:45 後半．ローマ 8:2，6，10-11。

忠信な執事、分与者を持たなければならない

Ⅱ．神は彼のエコノミーを遂行するために、神聖な命の供給を神の子供たちに分与する忠信な執事、分与者を持たなければなりません——ルカ 12:42．テトス 1:7：

A-B;神のエコノミー執事として、キリストを享受し、供給し、分与する

A．「執事」というギリシャ語は、Ⅰテモテ第 1 章 4 節とエペソ第 1 章 10 節の「エコノミー」という言葉と同じ語根から成っています。

B．わたしたちはみな神のエコノミーの良い忠信な執事でなければなりません。すなわち、キリストを享受し、キリストを供給して、キリストを神のさまざまな恵みとして分与して、神の家族としての聖徒たちに供給する者でなければなりません——Ⅰコリント 4:1-2．エペソ 3:2．Ⅰペテロ 4:10．エペソ 2:19。

C-E;恵みの執事職を遂行する

C．日ごとに、驚くべき伝達が起こっているはずです。神は、恵みの霊を満ちあふれるほどに供給しています。わたしたちは、絶えず恵みの霊を受けて分与しているべきです——ヨハネ 1:16．ヘブル 10:29 後半．ガラテヤ 3:2-5．エペソ 3:2．4:29。

D．クリスチャン生活は、恵みの生活、恵みの経験であり、わたしたちが恵みの執事職を遂行し、恵みを分与することができるようにします——3:1-2．Ⅱコリント 12:7-9。

E．わたしたちは恵みの霊の満ちあふれる供給の経路となる必要があります。すなわち、神の恵みの言葉を聖徒たちに供給し、分与して、彼らが命において成長し、キリストを享受するようにする必要があります——使徒 6:4．20:32．Ⅱコリント 3:6．ピリピ 1:19-25．ヘブル 10:29 後半．Ⅰヨハネ 5:16。

言葉の務めは、必ず主からの負担を持って行わなければならない

Ⅲ．わたしたちは、主からの負担を持って言葉を供給しなければなりません：

負担を受け、負担を解き放つ（交わりの中で、祈ることを通して、啓示を受ける）

A．神に開いた霊は、神から負担を受ける条件です。わたしたちは主との親密な交わりの中で、祈ることを通して負担を受け、負担を解き放つことを学ばなければなりません——ルカ 1:53．詩 27:4．イザヤ 59:16．コロサイ 4:2：

1．祈りと働きは、分離することはできません。祈りがなければ、働きはありません——エレミヤ 33:2-3．イザヤ 62:6-7．使徒 6:4。

2．神は、わたしたちに祈りの負担を与えるなら、それが発表されることを願っています。負担は発表を通してのみ下ります——マルコ 7:29．ヘブル 5:7。

3．もし家で声に出して祈ることができないなら、主が行なったように、わたしたちの負担を発表することができる場所を見つけましょう。わたしたちは、小さい声で祈ったとしても、聞こえるように祈るべきです。神は、わたしたちの負担が言い表されることを願っています——マルコ 1:35．ルカ 6:12．詩 4:1．5:1-3．77:1．102:1．116:1．142:1．雅 2:14。

B-C;言葉の供給、召会の建造

B．預言者が受けた啓示は、彼らが受けた負担でした。負担がなければ、言葉の務めはなく、預言はなく、召会を建造することもありません――イザヤ 1:1．2:1．13:1．15:1．ゼカリヤ 12:1．マラキ 1:1．使徒 6:4．Ⅰコリント 14:4 後半：

1．わたしたちの負担は神の啓示を人に解き放つことであり、神の啓示は、神がわたしたちに与える啓示の言葉を通して解き放たれます――2:11-16。

2．わたしたちが神の言葉を供給するとき、わたしたちの関心事は、わたしたちに神の語りかけがあるかどうかであって、わたしたちの語る題目であってはなりません。神の語りかけを得るために、言葉の務めをする人は負担を持たなければなりません――マラキ 2:7。

3．言葉の務めをする人は、人の状態を神の御前にもたらし、彼らの状態を感じ取り、神が語りたいことを知らなければなりません――出 28:29-30。

C．召会を治めることでの、また言葉の務めをすることでの最大の問題は、主からの負担を持たないことです：

1．負担がなければ、わたしたちのすべての活動は、死んで効果のないものとなります。負担があれば、わたしたちは生きて繁栄します。

2．負担を持つことは、わたしたちを最も多く対処します。負担があるなら、自己は減少し、対処されます。なぜならある事は、わたしたちの負担がわたしたちに行なわせないようにし、ある事は、わたしたちが対処されることを要求し、そうでないと自分の負担を解き放つことができないようにするからです。

3．わたしたちが義務感で奉仕し、負担をもって奉仕するのでないなら、そのような奉仕は、わたしたちに主の臨在を失わせます――参照、マラキ 3:14．申 4:25。

4．わたしたちの奉仕が義務を果たす事柄になるときはいつも、わたしたちの奉仕はすでに堕落しています。

わたしたちは、互いに一つ思いで組み合わされなければなりません

Ⅳ．わたしたちは、互いに一つ思いで組み合わされなければなりません――使徒 1:14．2:46：

A-B:組み合わせの霊、学ぶ霊、助ける霊

A．からだを見ていることの最大のしるしは、わたしたちが単独になることはできないということです。パウロがⅠコリント第１章１節でソステネを述べていることは、彼にからだの感覚と**組み合わせの霊**があったことを見せています。

B．わたしたちは、他の人を必要とし、他の人がからだの中の組み合わせのために、わたしたちを必要とするという感覚を持たないゆえに、わたしたちの間で、**学ぶ人の霊、助けを必要とする霊**を持っている人はごくわずかです――マタイ 5:3：

1．組み合わせは、互いがいなければ何もできないということを意味します。

2．互いを必要としない、また交わりを必要としないと感じるのは、最もひどい高ぶりです。それは主にとっても、からだにとっても、最も罪を得ることです。

3．もし他の人との組み合わせに欠けるなら、わたしたちは常に、彼らが行なうことを批判するでしょう。

C-D;言葉の務め、交わり、祈り

C．**神の祝福は、わたしたちの一つ思い、また霊の中で互いに調和一致していること、真の組み合わせを持っていること、真の一を持っていることに基づいています**――使徒 1:14：

1．わたしたちは言葉の務めをし、交わり、祈るとき、人を批判すべきではありません。特に、人と祈るとき、相反する方法で祈ることを避けるべきです。

2．わたしたちは絶対に、言葉の務めの中で人を批判することを避けるべきです。人を批判することは、わたしたちが狭いことを示しており、これは分裂に導きます。

3．わたしたちが常に持つ必要のある態度は、人を尊重し、人と協力し、組み合わされるという態度です。わたしたちは自分の分にしたがって人に仕え、人の分を尊重すべきです。なぜなら、両者の分は、主がわたしたちに託しているものであるからです。すべての人はへりくだって、自分の分を他の人の分より高く考えないようにすべきです――ピリピ 2:3-4。

4．兄弟たちは砕かれ、他の人に適応し、他の人の機能を尊重する学課を学ぶ必要があります。こうしてはじめて、わたしたちはからだの感覚を守り、わたしたちの間で建造を生み出すことができます。

5．わたしたちはみな一つ魂になって、メッセージを語っているすべての人のために祈り、彼らに供給し、彼らを支えるべきです。もし主に仕える人たちが絶えず不調和であっ

て、一つ思いの中にないなら、敵、聖徒たち、子供たちでさえそれを知るでしょう。

6．わたしたちの語りかけが他の人より高いという印象を、聖徒たちに与えてはなりません。むしろ、聖徒たちは、わたしたちの語りかけが、他の人の語りかけと調和しているという印象を持つべきです。

7．ある兄弟が語るとき、ある人は批判的になり、心の中で、「わたしはこれをすでに知っている」と言うかもしれません。このような霊は、神の働きを破壊するものです。

8．忠信な聖徒たちがわたしたちを観察しているので、わたしたちは注意して、わたしたちと主の回復に対する憂慮をかき立てることを、何も行なったり、何も言ったりしてはなりません――Ⅰコリント 1:10．Ⅱコリント 12:18．Ⅰテモテ 4:12．テトス 2:7-8。

9．高ぶりは破壊を招きますが、へりくだりは祝福をもたらします――箴 16:18．Ⅰペテロ 5:5。

10．奉仕する者たちの間で建造に欠けるのは、互いに愛に欠けているからです：

a．わたしたちに対する主の言葉と、わたしたちのための主の祈りは、互いに愛し合うことでした――ヨハネ 13:34-35．15:12，17。

b．奉仕する者たちの間には、特別な愛があるべきです。そのような互いに対する愛は、わたしたちと主との一から来ます。

c．**長老と同労者は、互いを牧養し合い、互いに愛し合って、からだの生活の模範となるべきです**――21:15-17．Ⅰペテロ 1:22。

D．わたしたちは霊を活用し解放して、一つ思いで祈ることによって、共にブレンディングされる必要があります――マタイ 18:19．使徒 1:14．詩歌 614 番：

1．わたしたちは団体として祈るべきであって、個人主義的に祈るべきではありません。

2．一方で、わたしたちは、続いて祈る人が、わたしたちの祈りを継続することができるように祈るべきです。もう一方で、わたしたちはまた他の人の祈りに聞き入り、彼らの祈りの中に入って、彼らの祈りに続くべきです。

3．わたしたちは主に対する懇願と嘆願の短い祈りをすべきであり、主に説明することに満ちた、主に描写や指示を与えることに満ちた、長い祈りをしてはなりません。

4．長い祈りは常に祈りの集会を殺します。それは、あなたが自分と自分の感覚だけを顧みて、他の人や、集会における雰囲気とその霊の流れを顧みていないことを示します。

互いに組み合わされて奉仕する：キリストを享受し、神にしたがって牧養し、快く与え、預言し建造する

Ⅴ．召会の中で互いに組み合わされて奉仕することは、召会の堕落に打ち勝つことであり、それは神の七倍に強化された霊によって、キリストを命の木、隠されたマナ、宴席として食べることを通して、神の永遠のエコノミーを完成させることです――啓 4:5．5:6．2:7，17．3:20-21．ゼカリヤ 4:11-14：

A．召会の中で互いに組み合わされて奉仕することは、キリストを義、平和、聖霊の中の喜びとして享受することです。「このようにキリストに仕える者は、神に喜ばれ、人にも良しと認められます」――ローマ 14:17-18。

B．召会の中で互いに組み合わされて奉仕することは、神にしたがって人を牧養することです――Ⅰペテロ 5:1-6。

C．召会の中で互いに組み合わされて奉仕することは、快く与える者となることです――Ⅱコリント 9:7．使徒 20:35。

D．召会の中で互いに組み合わされて奉仕することは、預言の生活をして、流れる三一の神をあふれ流すことによって召会を建造し、神の豊満としての召会を構成することです――ヨハネ 4:14 後半．7:38-39．Ⅰコリント 14:4 後半，26．エペソ 3:19。